

ラ・サール会メキシコ北管区のカルロス管区長来校(2026.2.9～12)

このたび、ラ・サール会のメキシコ北管区で管区長を務めるカルロス＝カスタニェーダ修道士 (Brother Carlos Castañeda) が来日され、本校や函館ラ・サール学園を視察されました。



ラ・サール会メキシコ北管区の HP より

聖ジャン・バティスト・ド・ラ・サールがフランスで 17 世紀後半に組織したラ・サール会(正式名称は「キリスト教学校修道士会」)は世界的な組織で、約 80 カ国で約 1000 校を運営しています。この 80 カ国が 28 の管区に分かれており、日本は他のいくつかの国とともに東アジア管区に属しますが、ラ・サールの学校が多いメキシコは北と南で独立した管区になっています(南管区は正式には「アンティル諸島とメキシコ南管区」で、メキシコ南部のほかドミニカやキューバなども含まれます)。

カルロス管区長は 2026 年 2 月 9 日～ 12 日に本校に滞在されました。ちょうどその間に本校の高校卒業予餞式があり、折角ですので参加していただきましたが、その厳粛な雰囲気、卒業生の堂々たる姿をご覧になって、大いに感銘を受けたとのことでした。

そのカルロス管区長からメッセージが届きましたので、披露させていただきます。

私にとって初めての「日本」への旅は、ラ・サール学園のある鹿児島から始まりました。読書や個人的な関心を通して、私は以前から日本文化を深く敬愛してきました。敬意、儀礼を大切に作る心、そして質素さ(慎み)・・・これらは、私たちアメリカの国々が大切に学ぶべき価値だと感じています。

2 月 10 日には、高等学校の卒業予餞式に参列するというたいへん貴重な機会をいただきました。卒業していく一つの世代を見届けただけでなく、卒業生の皆さんが示す「秩序」と「やり遂げた誇り」を目の当たりにし、強い感銘を受けました。卒業生の皆さん、先生方、そしてご家族の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

アントニオ校長にご同行いただき、教職員の皆さまとお会いする機会もいただきました。そこで私は、鹿児島においてラ・サールの教育ミッションを担ってくださっていることへの敬意と感謝をお伝えしました。また、ラ・サールの価値観は世界中どこでも共通であり、「価値観に基づく教育」と「学問の卓越性」を追求する使命は、メキシコでも日本でも同じであることを共有しました。創立者である聖ヨハネ・バプティスト・デ・ラ・サールの願いのとおり、私たちは地理的に離れていても心をつなぐし、教育を通してより良い世界の実現に協力し続けています。



本校校長室にて、カルロス管区長(左)とアントニオ校長(右)

理事長先生を始め、教職員やフェルミン修道士にも、温かい歓迎を賜り、心より感謝申し上げます。